すみだ地域学情報 We!

第7号
2009年
（平成21年）
2月発行

発行：墨田区教育委員会（生涯学習課）
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号
☎ 03-5608-6309 FAX 03-5608-6411 ✉ syougaigakus@city.sumida.lg.jp

ふれあい 活力 ゆとり
すみだ

すみだ やさしいまち宣言・人と地域と連携のために

すみだが歩んだ歴史

墨田区の誕生からいまをたどる⑦

昭和50年代（前号のつづき）

52年（1977年）4月、隅田川をはさんで隣接し、東京の下町として密接なつながりをもつ墨田区と台東区の姉妹区提携の調印式が言問橋上で行われ、その後、桜橋がそのシンボルとして、60年3月に完成しました。

また、52年8月には、「すみだ音頭」（作詩・古川喜久子、補作詩・丘灯至夫、作曲・市川昭介）が発表され、今日まで各地域の盆踊りなどで踊り継がれています。

区政では55年11月、まちの将来のあるべき姿であるとともに、区政の最も基本となる指針の墨田区基本構想が区議会で可決され、「人と緑と産業の調和した安全・快適・豊かなまち」の実現をめざすこととなりました。

さて、この時期には隅田川の水質の改善が進み、四季折々の行事が次々と復活しています。

まず、毎年、墨堤の見事な桜とともに春の到来を告げる「早慶レガッタ」が、53年（1978年）4月、17年ぶりに復活。56年からは「ウォーターフェア隅田川レガッタ」も開催されています。

早慶レガッタは明治38年（1905年）に始まり、昭和19年（1944年）に戦争のため中断され、22年に再開。その後、37年（1962年）には隅田川の水質悪化のため戸田で開催されていたのです。

53年7月には、河川の汚れや交通事情の悪化により36年から中止されていた両国川開き花火が、17年ぶりに、「隅田川花火大会」として復活。57年からは、花火コンクールがプログラムに取り入れられました。61年から花火の玉数を17，500発から20，000発に増やすとともに、玉の大きさも4寸玉から5寸玉となり、より一層観客の皆さんを魅了することとなりました。

一方、59年（1984年）、両国国技館が完成。今日の大相撲の原型は江戸時代に生まれ、勧進相撲の開催場所として本所回向院の境内に定着し、念願の常設館として両国国技館が明治42年（1909年）に開館しました。その後、大正時代に失火や関東大震災により全焼し、その都度再建。さらに昭和20年（1945年）3月、東京大空襲で焼失し、24年から蔵前国技館が使用されていました。

60年（1985年）2月、国技館の両国復帰を歓迎し、記念式典とともに、「5，000人の第九」コンサートが開催、日本全国の話題となり、「すみだ第九を歌う会」の会員は区民を中心に広く全国から6，000人にも及びました。

一方、61年（1986年）8月には、区内の産業や文化に関するコレクションを紹介する「小さな博物館」運動がスタート。現在25館が開館し、優れた職人技や珍しいコレクションに出会うことができます。

区では62年2月、山崎榮次郎区長が逝去し、3月の区長選挙で奥山澄雄氏が当選しています。

写真　隅田川花火大会

緑と花でおもてなし

墨田区は、昭和47年3月の「緑化宣言」以来積極的に緑化を推進しています。「緑と花の学習園」は、「みどり」を大切にする方々をサポートするため、「見て」「学び」「相談」できる施設として、昭和56年4月1日に開園しました。園内には、約280種5,000本以上の植物が植えられ、四季の移ろいを感じることができます。シンボルツリーの一つである枝垂れ桜（写真）は3月下旬に見頃となり、多くの方々で賑わいます。

さらに、都会では見ることが少ない山野草のコーナーも、人気を集めています。

また、緑化ボランティアである「緑と花のサポーター」が本園を拠点に活動。区のイベントで配布する苗を種から育てたり、緑化講習会などのスタッフとして活躍しています。今後は地域の緑化リーダーとして、区と協働で緑化に取組んでいきます。

緑と花の学習園（文花2-12-17）
［問合せ］環境保全課 ☎5608-6208